

【ポスター発表】

短期大学における実習前評価の検討

— 「実習前評価システム（短期大学版）」の試行的実施から—

○帯広大谷短期大学 阿部 好恵 (8748)

キーワード：実習前評価システム（短期大学版）、OSCE（短期大学版）、疑似CBT

1. 研究目的

近年、相談援助実習が臨床参加型実習へと転換する中で、実習前に学生の実習生としての適格性が求められるようになり、日本社会福祉士養成校協会北海道ブロック（以下、北海道ブロック）では、平成 21 年から試行期を経て実習前評価システムを施行している。このシステムは①相談援助実習前に設定される社会福祉士受験科目群で事前に習得する必要があるとする前提科目②実習前技術試験（OSCE）③実習前知識試験（疑似CBT）を主要要素とし、学生が実習に必要な価値・知識・技術について理解を深め、その到達度を確認し、修正・強化・向上に努めることを目的としている。本学で上記システムを試行した際、前提科目の多くが並行履修中もしくは履修前であること、教育・準備期間が短いこと、実習前の実施を勘案すると試験時期が限定されること等の課題が生じた。北海道内で社会福祉士養成を行う短期大学は本学 1 校であったことから、実習担当教員間で検討を重ね、北海道ブロックのシステムを踏襲し、短期大学の状況に対応した実習前評価システムを考案し、試行期も含め 5 年間実施してきた¹。

このため、本研究では本学で実施してきた「実習前評価システム（短期大学版）」について再整理するとともに、他校で試行し、試験結果や学生に対するアンケート調査から効果や課題を抽出することを通して、短期大学における「実習前評価システム」の構築を検討することを目的とする。

2. 研究の視点および方法**（1）研究の視点**

社会福祉士養成校協会会員校²のうち短期大学は、平成 26 年度現在 10 校を割り、その数は少ないものの、2 年間の養成課程においても実習生のミニマムスタンダードを担保する必要があると考えられる。このため、本研究の協力について了解を得た A 大学短期大学部（以下、A 短大）において「実習前評価システム（短期大学版）」を試行し、アンケート調査により学生のシステムに対する印象や実習に対する気持ちの変化等から分析した。

（2）研究の方法

対象は、A 短大の学生で平成 26 年度に相談援助実習を行う 12 名とした。研究方法は、平成 25 年 12 月に「実習前コンピテンシ・シート（短期大学版）」・冬期休暇中の課題「実

習へ臨む自己の姿勢」を配布し、課題は各学生に書面にてフィードバックを行った。翌年5月にOSCE（短期大学版：5問）と疑似CBT（50問）を実施した。試験結果は各学生に個別得点票にて通知した後、アンケート調査を実施した。なお、本システムでは各試験で得点が6割未満の学生には再試験を実施するが、今回は試行のため実施しない。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会研究倫理のもと研究を行った。A短大実習担当教員、学生へ書面及び口頭にて研究協力を依頼した。また、試験結果や調査で得られた回答は統計的に処理を行い個人が特定されないよう配慮すること、科目の成績に影響しないことを伝え同意を得た。

4. 研究結果

OSCE（短期大学版）は、最大値75点、最小値25点、平均値が53.8点で「コミュニケーション」の問題は平均値が高く、「ソーシャルワーク論」は低かった。また、疑似CBTは、最大値72点、最小値44点、平均値が61.7点で、「事例」に関する問題は平均値が高く、「コミュニティワーク」は低かった。

アンケート調査の結果は、実習前の試験の必要性について、12名から両試験ともに「必要」「どちらかと言うと必要」との回答があった。また、試験の受験による実習への意欲について、半数以上の学生が「実習への意欲がわいた」「少しわいた」と答えているが、「あまりわかかなかった」と回答する学生もいた。システム全体に関する自由記述では、「実習へ臨む自己の姿勢」は自己覚知や自分の思いを言語化する練習になる等が挙げられた。

5. 考察

「実習前評価システム（短期大学版）」を通じ、知識・技術の数値化によって、学生が自分の知識量を確認するだけでなく、「試験」という機会を設けることで試行であっても事前学習や実習に対する姿勢に変化が見られた。また、試験以前に記述式の課題を設定することで、学生が自己を可視化するだけでなく、試験に意識を向け、事前学習を開始する契機となっており、特に準備期間が限られている短期大学の場合は、段階的に課題を設定することが不可欠であると言える。本システムの課題として、試験実施後のフィードバックの時期や方法、使用する資料の記載内容や量、履修前の科目の取り扱いに関して検討する必要性が示唆された。

¹この短期大学版は北海道ブロック社会福祉実習セミナーで平成21年から5年間報告し、「自校の状況に応じてアレンジして実施している」として認知されている。北海道ブロック社会福祉実習研究協議会・社団法人日本社会福祉士養成校協会北海道ブロック・一般社団法人日本社会福祉教育学校連盟北海道ブロック（2013）『2013年度社会福祉実習セミナー報告書』社団法人日本社会福祉士養成校協会北海道ブロック事務局、30-37。

²一般社団法人日本社会福祉士養成校協会ホームページ（http://www.jascsw.jp/jascsw_members_list.html）。